

番号	遺構・遺産名	災害	西暦	災害及び活動の特徴	媒体	設置年	場所	媒体の詳細	活用	活動期間	活用の方法	主体	主な対象	出典	
1	近畿・七道諸国の大地震と平城京の震災痕跡	地震	734	725年と734年に近畿・七道諸国で地震をはじめ、飢饉などさまざまな災害が流行。	建築	734	奈良県奈良市	時の聖武天皇が鎮護国家を目指し東大寺及び盧舎那仏を建立。							
					土馬	734	奈良県奈良市	平城京遺跡の側溝跡から発見される土馬は、古代の祭りや雨乞いの祭祀が行われた際に使われた。							
2	明応地震津波と細江神社の祇園祭	地震津波	1498	南海トラフを震源とする巨大地震。浜名湖の今切が決壊し、淡水湖が汽水湖となる。	神体	室町時代	静岡県浜松市北区細江町気賀996	細江神社では、この津波のときに漂着した御神体を地震厄除の神として祀っている。	祭礼	～現在	7月第3日曜日にこの津波の際に漂着した御神体を地震厄除の神として祀る祇園祭が行われている。		地域住民	静岡新聞URL: <a href="http://www.at-s.com/news/article/locat/west/58628.html">http://www.at-s.com/news/article/locat/west/58628.html</a>	
3	天正地震と液状化痕跡	地震	1586	日本海側の若狭湾から太平洋岸の三河湾に及ぶ大地震。山崩れによる帰雲城の埋没や長浜による液状化による水没などがあつた。若狭湾・伊勢湾での津波被害もあつた。	地層	災害発生時(1988年の発掘調査で発見)	愛知県清須市	液状化の噴砂が噴出した痕跡、17世紀初頭の「清洲越」の瓦が存在することから、天正地震の痕跡として確認できる。	展示		名古屋大学滅災館において、液状化痕跡の剥ぎ取り標本が常設展示されている。		地域住民	福和委員報告 2015.10.15	
4	慶長豊後地震津波と「瓜生島」伝説	地震津波	1596	別府湾口で発生。流失家屋1000戸、死者708名、高崎山と由布岳の山崩れなどの被害を発生させた。別府湾にあつた瓜生島及び久光島の2島が沈んだという伝承をもとに、島の神様にいたずらをしたために島が沈んだとする「瓜生島伝説」が	神体		大分県大分市	慶長年間の地震の犠牲者・行方不明者の苦悩を癒すために建立。旧暦7月24日には永代施餓鬼が行われている。							
5	慶長奥州地震津波と津波石	地震津波	1611	江戸時代の初期、現在の岩手県三陸沖を震源として発生した地震。地震の規模を示すマグニチュードは推定8.1。	津波石	災害発生時	岩手県宮古市摂待地区	岩手県宮古市摂待地区には、1611年の津波の津波石だとされる摂待の大岩があり、近くには明治三陸地震津波の際に流されてきた津波石が存在する。						川島検校委員会報告 2015.11.17	
6	寛文近江・若狭地震と災害地形	地震	1662	近畿地方北部一帯に大きな被害を出した内陸地震。被災地域全体で死者700～900人、倒壊家屋4000～4800軒。双子地震。	地形	災害発生時	琵琶湖西岸内陸部葛川谷	町居崩れと呼称されるこの大規模土砂崩れで形成された天然ダム(河道閉塞)が冠水し、大池が残った。							『災害史に学ぶ-内陸直下型地震編』2011
					地形	災害発生時	福井県三方郡御浜町・三方上中郡若狭町	三方五湖:三方湖・水月湖・菅湖・久々子湖・日向湖から成り、菅湖から久々子湖に流れる気山川の地盤が寛文の大地震により隆起、川の機能を失う。							
					絵図	1996	東京堂出版	浅井了意『かなめいし』。地震によって八坂神社の石鳥居が倒壊し、地震に驚いた茶屋の客たちが逃げ回っている様子が描かれている。							
7	明暦江戸大火と慰霊碑	火災	1657	江戸を襲った大規模火災の最初であり、最大規模の火災。被害者数6～7万人か。	古文書	災害発生時	東京都立中央図書館所蔵(港区南麻布5-7-13)	朝井了意『むさしあぶみ』、炎の中を逃げ惑う群集や幕府による粥施行の様子挿絵が記載され、死者は10万人と述べられている。	研究		江戸幕府によって定火消制度の創設、自主的な防災組織の発足のはじまり。		研究者	『災害史に学ぶ-風水害・火災編』2011	
					石碑	1657	回向院(東京都墨田区両国2-8-10)	この大火での犠牲者を供養するために「石造明暦大火横死者等供養碑」を建立した。現在は回向院に存在しており、東京都の指定文化財とされている。							
8	外所地震の供養碑	地震津波	1662	日向灘を震源域とするマグニチュード(M)7.6の大地震。現在の宮崎県南部を中心に死者200人、全壊家屋は3800戸被害を受けた。	石碑	1705年頃、以後50年ごとに新造	宮崎県宮崎市木花地区	島山集落に存在している、外所地震の犠牲者の供養碑である。	祭礼	1805～2007	50年ごとに供養祭が行われ、その度に供養碑を建立し、慰霊を続けている。		地域住民	宮崎日日新聞URL: <a href="http://www.47news.jp/special/localnews/hotnews/2012/10/350-3.php">http://www.47news.jp/special/localnews/hotnews/2012/10/350-3.php</a>	
9	元禄地震津波と隆起地形	地震津波	1703	M7.9～8.2と推定される海溝型地震。液状化現象も発生。関東全体の被災者37000人と推定。	地形	災害発生時	千葉県南房総市白浜フラワーパーク内	元禄地震により南房総の海岸線が隆起した。南房総伊勢船島は元禄地震以前は海中に浮かぶ島であったが、元禄地震による隆起のため現在は陸地となっている。						北原委員報告 2015.10.15	
10	印南町の津波記録と印南中学校における教育実践	地震津波	1707	宝永4年の南海トラフ地震で印南集落に被害。これを教訓に安政南海津波では溺死者を出さなかった。	位牌	1719	印定寺(〒649-1534 和歌山県日高郡印南町印南2259)	宝永地震による津波によって犠牲となった印南地区の人々の霊魂を鎮めるために、印定寺に建立された宝永津波溺死者の合同位牌。	教育	2005～現在	印南中学校では2005年より学習において10年に亘り津波研究と防災啓発を取り組み、中学生の手による史料解説や津波解説板の設置を実施。	印南中学校	中学生・地域住民	紀州新聞「印南中生徒が貴重な防災資料「かめや板壁」解説に取り組む」 <a href="http://blog.goo.ne.jp/ks-press/m/201508">http://blog.goo.ne.jp/ks-press/m/201508</a>	
					石碑	1719		宝永地震による被害の大きさや教訓を後世に残すために印定寺に建立された記念碑。							
					古文書(板)	不明	〒649-1534 和歌山県日高郡印南町印南2261	かめや板壁:印南町の本郷地区にあつた吉田家の蔵の板壁に津波の被害などが記されていたもの。昭和26年に蔵を取り壊す際に、郷土史家の小谷緑草、田中宇南両氏が書かれた板を保存するとともに読解して紙に訳した。							

番号	遺構・遺産名	災害	西暦	災害及び活動の特徴	媒体	設置年	場所	媒体の詳細	活用	活動期間	活用の方法	主体	主な対象	出典	
11	和歌山県白浜町の飛鳥神社祭礼における「津波警告板」の活用	地震 津波	1707	宝永4年の津波の際、高瀬村の住民が被災、家財に心を寄せた者が溺死	古文書 (板)	不明	日神社(和歌山県西牟婁郡白浜町十九洲312)	地震や津波を経験した住民たちが後世の人々に伝えようと草堂寺住職に依頼して製作した津波掲示板である。和歌山県日神社の境内に存在している。警告板は和歌山県指定有名民俗文化財となっている。	行事	1707～現在	警告板には、家財に気を取られず「飛鳥神社か小倉山(富田小学校の裏山)に逃げる」ということや、最後には「祭りの時に皆に見てもらえ」と書かれている。つまり祭りのイベントと、神社のある高台に登る事で避難訓練を兼ねる、という先代の人々の知恵が生		地域住民	和歌山県立博物館 ニュースURL: <a href="http://kenpakunews.blog120.fc2.com/blog-entry-475.html">http://kenpakunews.blog120.fc2.com/blog-entry-475.html</a>	
12	富士山宝永噴火と火山堆積物	地震 火山	1707	富士山麓で小地震が続き、噴火直後には大地震が発生した。噴煙は東麓地域をはじめとして小田原や江ノ島の上空を覆い、大雨のような降土をもらたした。	絵図	江戸時代		「富士山宝永噴火之図」(静岡県御殿場市滝口文夫氏所蔵)東麓の御殿場付近から見た噴火の様子が記されている。	防災	2004	火口の位置、噴出量、噴火様式、気象条件なども考慮にいれて、降灰や土石流を予測したハザードマップが活用されている。	富士山ハザードマップ検討委員会	地域住民	『災害史に学ぶ-火山編』2011	
					自然物	災害発生時		富士山の東麓に厚く降り積もった宝永噴火の火山礫・火山灰。							
13	伊那谷遺産(池口崩れ・小道木(こどうぎ)の埋没木)	地震	1715	梅雨時の長雨にともなう豪雨によって天竜川地域に甚大な土砂災害がもたらされた。この年が未年であったため「未の満水(ひつじのまんすい)」と呼ばれていた。	自然物	不明	長野県駒ヶ根市	遠江地震により、池口川左岸の日陰山が崩落し、大量の岩石が川をせきとめ形成した天然ダム。また天然ダムの水と砂岩に埋まった場所には多くの森林が埋没し、埋没林が形成された。	イベント	2015.5.28	過去の災害を学び教訓を地域住民に受け継いでいくことを目的とした「天竜川災害伝承シンポジウム」が飯田市役所で開催された。また埋没林等の見学も行われている。		地域住民	天竜川上流河川事務所 URL: <a href="http://www.cbr.mlit.go.jp/YenryoYimusoNews/15_0415_041.html">http://www.cbr.mlit.go.jp/YenryoYimusoNews/15_0415_041.html</a>	
14	八重山地震津波をめぐ る伝統祭祀ナーバイと慰 霊祭	地震 津波	1771	八重山地震(明和の大津波)により宮古・八重山列島で死者・行方不明者12,000にのぼる。					行事	～現在	津波よけや豊作を願う宮古島での伝統祭祀「ナーバイ」、女性達の安寧の祈りと男性の舟漕ぎの模倣儀礼。		地域住民	川島検討委員会報告 2015.11.17	
									行事	～現在	明和の大津波で生き残った人たちがたいまつを頼りにタコラサー石に集まったという言い伝えを再現する慰霊祭が毎年4月24日に行われている。		地域住民	川島検討委員会報告 2015.11.17	
15	浅間山天明噴火	火山	1783	鳴動が響き、噴火の際に黒煙が柱のように登った。火口からは軽石や火山灰が降り注ぎ、日を追うごとに噴火の勢いは激しくなった。犠牲者は1624人(うち上野国一帯だけで1,400人以上)、流失家屋1151戸、焼失家屋51戸、倒壊家屋130戸余りであった。	地形	災害発生時	群馬県吾妻郡嬭恋村大字鎌倉	鬼押し出し:浅間山の噴火で流れ出した溶岩の一角で、その姿がまるで鬼が押し出して作ったようだとされたことから「鬼押し出し」と命名される。						『災害史に学ぶ-火山編』2011	
					資料館	1984	群馬県吾妻郡嬭恋村鎌原494	嬭恋郷土資料館:浅間山噴火の際、土石流に埋没した鎌原村落の出土品や、土石流に埋没した犠牲者の遺体などが発掘された。これらの展示物は鎌原観音堂に併設する嬭恋郷土資料館にて展示されている。						北原委員報告 2015.10.15	
16	「島原大変肥後迷惑」の 供養碑	津波 火山	1792	寛政4年、普賢岳火山活動の山体崩壊の土砂が有明海に流入し、対岸の島原で10,000人、熊本で5,000人が死亡	石碑	不明	熊本県宇土市	円応寺供養塔をはじめ、熊本県内に74基の供養塔が確認されている。						宇土市デジタルミュージアム URL: <a href="http://www.city.utso.kumamoto.jp/museum/pro/kinsei/kanseinotu/namikuyouhi.html">http://www.city.utso.kumamoto.jp/museum/pro/kinsei/kanseinotu/namikuyouhi.html</a>	
17	象潟地震と隆起地形	地震	1804	象潟地震により秋田・山形県沿岸25kmにわたって1～2mほど隆起、象潟湖の大部分が陸地化。	地形		秋田県にかほ市象潟町	かつて松尾芭蕉が「東の松島、西の象潟」と表現するほどの景勝地であったが、地盤の隆起により現在は田園の中にかつての小嶋が残る景観となっている。							
18	善光寺地震の災害痕跡	地震	1847.0	1847年5月8日夜10時ごろに、長野県飯山市から長野市更埴まで伸びる長野盆地西縁断層に発生した、逆断層型のM7.3程度の浅い地震。	地形	災害発生時	長野市信更町岩倉山	虚空蔵山崩壊、犀川せき止め:岩倉山(虚空蔵山)で発生した斜面の崩落は犀川に65mもの高さの巨大堰き止め湖を生じさせた。これによりふもとの村は川水を招き入れられず、水不足に陥った。	防災			洪水後の千曲川の堤防修復は幕府や河川流域の藩も資金負担をする国役普請となり、人足として農民が駆り出されて賃金が支払われた。これは一種の失業対策事業であり、また、より広域で復興資金を負担する方法であった。		地域住民・観光客	『災害史に学ぶ-内陸直下型地震編』2012
					石碑	1848	善光寺(長野県長野市元善町491)	善光寺境内にある「地震横死塚」身元不明者の鎮魂のため建立した。							
					建築	災害発生時	善光寺(長野県長野市元善町491)	善光寺本堂の柱、地震でねじれたものを修復維持							
					絵図	1849.0	真田宝物館蔵(長野市松代町松代4-1)	松代藩で作成された善光寺地震の被害の様子を記した絵図(「信州地震大絵図」)							

番号	遺構・遺産名	災害	西暦	災害及び活動の特徴	媒体	設置年	場所	媒体の詳細	活用	活動期間	活用の方法	主体	主な対象	出典		
19	安政東海地震・安政南海地震と「稲むらの火」	地震津波	1854	1854年12月23日午前10時近く、駿河湾、遠州灘、熊野灘の海底を震源域とする推定M8.4の巨大地震。被害は関東地方から近畿地方におよび、沼津から伊勢湾岸沿い、特に箱根から見附あたりの東海道筋で家屋倒壊・焼失が著しく、また、甲府盆地も被害が甚大であった。家屋の倒壊は甲斐・信濃・近江・摂津・越前・加賀までおよぶ。和歌山県広村では、津波が襲来した後に、濱口梧陵が自身の田にあった藁の山に火をつけて安全な高台にある広八幡神社への避難路を示す明かりとし、速やかに村人を誘導することができた結果として村人の9割以上を救った(死者30人)。津波から命を救えるかは、情報の伝達の速さが関わっているという教訓を残し、これをもとに作られた物語が『稲むらの火』として知られている。	石碑	1855	大阪府浪速区幸町三丁目 大正橋東詰	大正橋に存在している『大地震両川口津浪記』。碑文には、安政南海時地震の半年ほど前に起こった伊賀上野地震による大阪の様子や、多くの人が小舟に避難したことが書かれている。	行事	150年前～現在	安政南海地震津波碑「大地震両川津浪記」の墨入れ行事と地蔵盆:毎月8月の地蔵盆に地域の人々が集まって石碑を洗い、文字が読みやすいように「墨入れ」をし供養を行っている。	周防大島町立城山小学校	小学校低学年・高学年、	地域住民	<a href="http://www.nnn.co.jp/dainichi/rensa/oskr/aman/150131/20150131044.html">大阪日日新聞 URL:http://www.nnn.co.jp/dainichi/rensa/oskr/aman/150131/20150131044.html</a>	
					モニュメント	1999	和歌山県田辺市新庄町3259-4内之浦干潟親水公園	1854年安政南海地震と1946年昭和南海地震の際にこの地を襲った津波の高さを示す潮位標モニュメントを設置した。	教育	1937-1947	地元出身教員の中井常蔵がハーンの作品を教材化し、文部省教材公募に入選したのが『稲むらの火』				『災害史に学ぶ-海溝型地震・津波編』2011	
					小説	1896		浜口梧陵の史実を元にしたラフカディオ・ハーン著「A Living God」の中で紹介。史実とは若干の違いも存在。	行事(津波祭)		「津波防災の日」制定に伴って毎年11月5日に、防災と慰霊、そして大堤防を築いた広川町の濱口梧陵達の偉業に感謝し、その遺徳を伝承するために行われている式典。この式典は平成27年で113回目を数えた。					
					絵図	1854	養源寺蔵(〒643-0071和歌山県有田郡広川町広1465)	広村を襲う安政南海地震津波の実況図(古田庄右衛門著「安政聞録」より)高さ約5メートルの大津波が15世紀初頭に築かれた波除石垣を乗り越えて村を襲い、背後の田んぼに浸入している。特に村の南北を流れる江上川(右側)と広川(左側)に沿って激しく流入している様子が描かれている。	防災教育	2014	防災教育チャレンジプラン「地域を見つめ、生きる力をはぐむ防災教育」:山口大学教授の出前授業や、東北大学災害科学国際研究所の東日本大震災の減災授業、高齢者に対する津波伝承の聞き取りや災害由来地名のフィールドワークを実施。小冊子『瀬戸内海でもご用心』と「防災かぞえ唄(いのこ唄)」を作成・CD配布。校区自治会が「津波到達碑」を建立				http://www.bosai-study.net/2014houkoku/plan.php?tyupe=1&no=10	
					建築	1855	和歌山県広川町	安政南海地震津波の経て、広川町の浜口梧陵・浜口東江・岩崎明岳らが住民の生命と財産を津波から守るため、私財をなげうって築いた大堤防。	行事		「稲むらの火」と津波祭の「土盛」:毎年11月に梧陵の遺徳を偲び「津波祭」を実施。「土盛」で新たな土を堤防に入れて補修を促す。					
					資料館	2007	〒643-0071和歌山県有田郡広川町広671	「稲むらの火・津波防災教育センター」として史料の展示や防災体験室を設置。								
20	安政江戸地震とかわら版	地震火災	1855	1855年11月11日に発生し、震源は東京湾北部やや深い位置で、地震の規模はM7前後と考えられている。災したのは江戸を中心とする関東平野南部の狭い地域に限られたが、大都市江戸の被害は甚大であった。	古文書	江戸時代		『安政地震焼失図』火災が起こった江戸市中の30数箇所まとめが記載されている。							『災害史に学ぶ-内陸直下型地震編』2013	
					絵図	江戸時代	東京大学史料編纂所蔵	『江戸大地震之図』:屋敷住居、長屋、馬屋などが潰れ、主人が庭に避難しており、遠くでは火災が発生している様子を描いている。								
					絵図	江戸時代	東京大学総合図書館蔵	『地震火災版画帳交帖』:地震後に出された絵巻。絵巻とは、地震を起こした鯨を懲らした様子を漫画に仕立てた錦絵である。								
21	飛越地震と安政の大転石	地震洪水	1858	大地動乱期に起きた内陸直下型地震。北陸地方や飛騨国を中心に大きな被害をもたらし、死者426人、負傷646人、家屋の全半壊・流失2190戸とされている。家屋の倒壊も著しく、飛騨では700戸余りが損壊し、200-300人の死者が出た。	古文書	江戸時代	富山県立図書館蔵	『越中山立山変事録』には、大量の土石や流木をまじえた土石流が下流の村々を襲ったときの様子が記されている。						『災害史に学ぶ-内陸直下型地震編』2014		
					自然物	1858	富山県立山町	『安政の大転石』は、大洪水によって常願寺川から流されてきたもので直径5.6m、推定400トンもある。水の力が持つ恐ろしさを物語っている。								
22	念仏講まんじゅう	土石流	1860	万延元年の集中豪雨と土砂災害により33人の被害者が発生。					行事		毎月14日に「念仏講まんじゅう」を全世帯に配布。仏壇に供えた後に家族で分け合う。		地域住民	<a href="http://www.bousaihaku.com/cgi-bin/hp/index2.cgi?ac1=B742&amp;ac2=B74201&amp;ac3=5987&amp;Page=hp2_view">消防防災博物館URL:http://www.bousaihaku.com/cgi-bin/hp/index2.cgi?ac1=B742&amp;ac2=B74201&amp;ac3=5987&amp;Page=hp2_view</a>		
23	浜田地震と震災祈念碑	地震	1872	震度7と推定される。浜田市内の死者は536人、家屋全壊は4506棟、地震発生の一週間前より前震を観測。	石碑	明治	島根県浜田市牛市町	震災祈念碑						北原委員報告 2015.10.15		
24	磐梯山噴火	火山	1888	水蒸気爆発型噴火。岩屑なだれ、火砕流、降灰、死者461、堰止めにより檜原湖・秋元湖などが生じた。	写真	災害発生時	磐梯山噴火記念館(福島県耶麻郡北塩原村松原字剣ヶ峰1093-36)	火口付近に多くの噴気が立ち上がっている様子が撮られている。(北麓からの磐梯山と噴火直後の磐梯山)、「磐梯山噴火之図」	教育		帝国大学理科大学(現在の東京大学理学部)初代地震学教授の関谷清景氏は、この噴火のあと直ちに現地に入り調査にあたり、石版画スケッチを製作した。このスケッチは、現在でも多くの内外の火山学教科書に引用されている。	学校関係者	教員・学齢児童	『災害史に学ぶ-火山編』2011		
					絵図	1889	国立科学博物館蔵(東京都台東区上野公園7-2)	噴火後の噴出物分布図(農商務省地質局調査報告書掲載)、磐梯山噴火の幻灯写真								
					地形	1888	松原湖、小野川湖、秋元湖、五色沼など	旧長瀬川などの多くの河川が埋没したために次第に水を蓄えて、多くの湖沼(天然ダムによって形成された貯水池)が形成された。	教育		『磐梯山に強くなる本』として福島県火山学習会が、中学生向けに防災に対する知識と対策を伝えている本。					
					地形	1888	福島県猪苗代町・磐梯町・北塩原村	磐梯山の山体崩落:水蒸気爆発が引き金となり、磐梯火山で大きな崩壊が発生。岩屑なだれにより長瀬川がせき止められ、松原湖、小野川湖、秋元湖、五色湖が形成された。								

番号	遺構・遺産名	災害	西暦	災害及び活動の特徴	媒体	設置年	場所	媒体の詳細	活用	活動期間	活用の方法	主体	主な対象	出典	
25	エルトゥール号事件と日土交流	台風	1890	台風のため航行不能のエルトゥール号が和歌山県大島の樫野崎近郊で海難に遭遇。死者約500名の我が国海難史上未曾有の被害を出す。	絵図	1939	日土協会会報	当日の海難の様子を伝える錦絵	行事			慰霊碑の前で、犠牲者を弔うと同時に事件の記憶を語り継ぐ式典が約5年ごとに行われている。		地域住民	『災害史に学ぶ-風水害・火災編』2011
					写真	1937	駐日土耳其大使館『土耳其軍艦エルトグルル』	生存者写真							
					古文書	1890	トルコ記念館(串本町樫野1025-26)	大島村で救助した船員の診断書							
					古文書	1890	トルコ記念館(串本町樫野1025-26)	『土耳其軍艦アルトグラ一號遭難時取扱二係ル日記』—船員の救助にあつた沖周村長							
					石碑	1891	和歌山県大村町(樫野の丘)	エルトゥール号事件の記憶を語り継ぎ、犠牲者たちを弔うために和歌山県庁の石井知事の発案で、樫野の丘に慰霊碑を建立した。							
26	濃尾地震と根尾谷断層	地震 土石流	1891	日本の内陸で発生する地震としては最大級のもの。震源付近では震度7。揺れは広範囲に及ぶ。	石碑	1893	岐阜市忠節町4丁目	濃尾震災横死群霊碑	教育	2007		『濃尾地震と根尾谷断層』を題材としたビデオ教材・デジタル教材の開発と小学6年生・中学1年生の理科の授業における導入。	岐阜大学教育学部	教員・学 年齢児童	『災害史に学ぶ-内陸直下型地震編』2015
					石碑	1908	名古屋市千種区城山新町・尋盛寺	震災横死者供養塔:「七千百十五精霊 濃尾大震災横死者供養塔」と刻まれる。							
					建築	1893	岐阜県若宮町	震災記念堂:衆議院議員天野若圃の呼びかけにより建立。							
					地形	災害発生時	岐阜県本巣市根尾谷水鳥地区	根津谷断層:日本で確認できる最古の地震断層。国の特別天然記念物に指定されている。							
27	庄内地震	地震	1894	1894年10月22日17時35分に発生し、山形県酒田市を中心に庄内平野で北半分被害が生じた。被害は、庄内平野の東端の山沿いと、海沿いの砂丘東側の後背湿地、最上川沿いで多	写真	災害発生時	国立科学博物館(〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20)	庄内地震の被害の様子をとどめている写真で、震災予防調査会の大森房吉氏が撮影したと考えられている。				研究者	北原委員報告 2015.10.15		
28	明治三陸地震津波と慰霊碑	地震 津波	1896	地震30分後に巨大津波が押し寄せ、死者22000人となる。“前触れなき大地震”と言われる。明治三陸地震津波における大船渡市三陸町吉浜の被害。津波後の高台移転事業。	写真	災害発生時	仙台市博物館(仙台市青葉区川内26番地)	『風俗画報』釜石市街を襲う津波や被災地の様子を描いたもの。	研究			地理学者・山口弥一郎による明治三陸津波後高台移転の結果について、昭和三陸津波との比較から調査したもの。		研究者	『災害史に学ぶ-海溝型地震・津波編』2011
					絵図	1896	国立国会図書館蔵	『風俗画報臨時増刊第百十九号、大海嘯被害録中巻』口絵							
					石碑	1897	岩手県大船渡市	正寿印門前、明治三陸地震津波の195名の死者名を記している。							
29	「子供水防団活動」——自分の身は自分で守る	水害	1898以降 複数	北海道長沼の明治31年大水害	記録	不明	北海道長沼町		防災		子供水防団のハザードマップの作成	河川愛護団体リバー ネット21な がぬま	地域住民	『子ども水防団の訓練 安全に避難するための避難 体験学習会の開催』 URL: <a href="http://www.japanriver.or.jp/taisyo/taibu_ivusyou/katudou#no11">http://www.japanriver.or.jp/taisyo/taibu_ivusyou/katudou#no11</a>	
30	桜島噴火と石碑	火山	1914	1914年1月12日に桜島が噴火した。黒煙を吹き上げ全島を覆い、噴火の約8時間後にはマグニチュード7.1の地震をもたらした。大災害の割りには人的被害は最小限に食い止められ、島民の死者・行方不明者は30名であった。	石碑	1924	東桜島小学校校庭(鹿児島市東桜島町17番地)	高さは2.5mほどで、碑文の内容は、前述の桜島大正大噴火の被害を伝えるものになっている。	防災	1987~		京都大学防災研究所他が、山頂噴火の直前予知システムを開発した。噴火の予兆が捉えられるようになり、警告もしやすくなった。		地域住民	『災害史に学ぶ-火山編』2011
					写真	1914	鹿児島県立博物館蔵(鹿児島県鹿児島市 城山町)	1914年1月12日午前11時の硝煙の様子と牛根村の降灰状況をとらえた写真	防災	2010~		『桜島火山ハザードマップ』と題して、噴火の前兆、避難場所(経路)、などを掲載している。毎年爆発記念日の1月12日には総合防災訓練が行われ、住民の防災に対する意識を高めている。			
					石碑	1996	種子島西之表市	溶岩によって住む家はおろか土地まで失い、耕作不能になったため、島民2000戸、大隅半島の住民500戸にもなる人々が、種子島、宮崎県霧島山麓、朝鮮全羅道に移った。それを記念して「移住記念碑」を建て							
31	関東大震災と復興関連遺構	地震 火災 津波 土石流	1923	死者・行方不明者約105000人に達し、我が国の歴史史上最悪の自然災害。火災による死者13000人、全潰による死者11000人。	写真	1923		被服廠跡で茶毘に付されてきた遺骨の山に手を合やす人々の写真。『関東大震災写真帖』(東京婦女界社)	研究			東京市長・後藤新平主導の帝都復興計画。街路や公園の整備した近代的な町並み、幹線道路をグリーンベルトとして整備、永代橋などの近代コンクリート建築物の増加、中央卸売市場・ゴミ処理場・浄水場など、現在の東京の基礎を形成。		自治体	『災害史に学ぶ-海溝型地震・津波編』2011
					写真	1923	伊勢原市議会事務局所蔵(神奈川県伊勢原市田中348)	神奈川県中郡大山町で9月15日に発生した土砂災害の様子を捉えた写真。							
					建設	1930	東京都墨田区横網町2丁目3番20号	横網町公園・復興記念館:関東大震災時、陸軍兵舎跡地に避難した人々が火災旋風により38,000人が死亡。49日に府市協同の大追悼式を挙げる。皇室・有志者の寄付で震災の翌年に設立された財団法人同潤会による青山アパートメント、現在も表参道ヒルズの一角に保存。	祭礼	1924~現在		東京府市合同で震災犠牲者一周年祭抱擁遺構、毎年慰霊祭を実施。	東京都慰霊協会	自治体・ 地域住民	
					景観	1924	東京都渋谷区神宮前四丁目								

番号	遺構・遺産名	災害	西暦	災害及び活動の特徴	媒体	設置年	場所	媒体の詳細	活用	活動期間	活用の方法	主体	主な対象	出典
32	十勝岳噴火	火山	1926	1925年2月頃より小規模な噴火を繰り返していたが次第に活発化し、1926年5月からは小火口を形成するなど大規模な噴火が発生した。大規模な水蒸気爆発が起こり中央火口丘の西半分が崩壊、これにより生じた岩層なだれは噴火から約1分で火口から2.4kmの地点にあった硫黄鉱山の平山鉱業所宿舎を飲み込み、さらに山頂付近の残雪を融かして泥流を発生させた。火山弾・スコリア流によるものも含めると、上富良野を中心に死者・行方不明者144名、負傷者200名、流失・破壊家屋372棟という大災害となった。	写真	1980	上富良野町郷土資料館(北海道空知郡上富良野町富町1丁目3番30号)	『大正15年十勝岳大爆発記念写真集』破壊された流木とともに流されてきた家屋や流木を敷き詰めたようになった富良野川の写	イベント(見学会)		十勝岳では、火山砂防事業に本格的に着手して以降、現場技術者の間で火山防災事業を地域の一環として活用できないか、と「親子のセット」による小学生の火山砂防事業の見学会などが開かれた。この取り組みによって、防災教育や教訓の伝承がされている。		地域住民	『災害史に学ぶ-火山編』2011
					写真(論文)	1927		『十勝岳の爆発』多田文男・津屋弘達 東京帝国大学地震研究所彙報 第2冊, 1927.3.31, pp.49-84						
					地形	1926		泥流被害: 爆発により中央火口丘の北半分が破壊され、崩壊物質は北斜面を火山泥流となって流下し、途中から大量の水が加わり、美瑛川、富良野川を高速で流下。犠牲者、建造物、耕地に大きな被害を出した。						
					資料館	1992	北海道上天川郡美瑛町字白金	十勝岳火山防災センター: 十勝岳の監視と展示機能を持ち、緊急時には避難施設となる砂防情報センターが、美瑛川に橋をかけて対岸の高台に作られた。上富良野の平野部には、砂防堰堤工事の廃土を活用して新幹線沿いの田畑をかさ上げし、避難所の機能をもつ防災センターが設置された。						
33	昭和三陸地震津波と津波碑	地震津波	1933	震度5。三陸地方沿岸部を津波が襲う。釜石町で大火発生。田老村で1000人以上の死者・行方不明者。	石碑	1934	青森県	「地震、海鳴り、ほら津波」の碑文の津波碑	防災		昭和三陸津波発生の3月3日に防災訓練の実施。	地元消防署	地域住民	津野町の津波証言 URL: <a href="http://memory.eve.jp/tsunami/shogen/w/hiro.html">http://memory.eve.jp/tsunami/shogen/w/hiro.html</a>
					石碑	1934	岩手県洋野町	東京朝日新聞社の出資で津波碑の建立。						
					石碑	1934	岩手県宮古市重茂字姉吉	岩手県宮古市重茂字姉吉に「大津浪記念碑」が建てられ、この碑がある高さより下に作業小屋以外の建物は建てるなと警告している。	伝承		三陸地方に伝わる「津波てんでんこ」。誰をも構わず自分だけを守り、高台へ避難すること。	地域住民	『災害史に学ぶ-海溝型地震・津波編』2011	
					写真	1934		『岩手県昭和震災誌』						
					建築	1979	岩手県宮古市田老地区	田老村で「万里の長城」と呼ばれる頂戴な防潮堤を建設。	防災教育	2009	防災教育授業の一環として、地域に残されている津波記念碑などの史跡調査、体験談の取材や、郷土資料館で歴史上の津波被害の様子を取材。自主制作ビデオ「てんでんこ」を作成	釜石東中学校		
					建築	1941	釜石市	海面の変動を察知し、自動的に市街地にサイレンを鳴らす。						
34	第一次室戸台風被災慰霊祭	台風	1934	第一次室戸台風の際、大阪市域の木造校舎の倒壊により児童や保護者に多くの被害があった。	石碑	2008	住吉小学校(〒558-0052 大阪府大阪市住吉区 帝塚山西4丁目1-35)	1934年9月21日に近畿地方を襲った第一次室戸台風による犠牲者・負傷者の方々の慰霊と、この悲劇を忘れぬように地域・児童からデザイン公募し、創立100周年にあたる2008年9月にこの室戸台風慰霊碑を住吉小学校内に建立した。					住吉小学校ホームページURL: <a href="http://swa.city-osaka.ed.jp/weblog/index.php?id=e731661&amp;type=1&amp;column_id=105256&amp;category_id=4603">http://swa.city-osaka.ed.jp/weblog/index.php?id=e731661&amp;type=1&amp;column_id=105256&amp;category_id=4603</a>	
35	周防灘台風の防災教育	台風	1942	1942年8月27日周防灘台風は、大潮・満潮が重なり、臨海部が壊滅状態、堤防が切れ市街地が浸水し、山口県全体で死者・行方不明者794人の被害を出した。					防災教育	2007	防災教育チャレンジプラン「せいふていねつと黒石～ひとつの命も失わないぞ～」: 宇部市黒石小学校・中学校校区において、校区住民を中心に自衛隊・消防本部との倒壊家屋からの共同訓練、着衣水泳訓練、非常食試食を実施。洪水マップにもつくパソコン	黒石校区住民		
36	東南海地震と体験談の絵画化	地震	1944	M7.9。昭和の東南海地震といわれる。震度5～6。津波の高さは北牟婁郡尾鷲町で9m。死者の多くは津波による死者。					イベント		「1944年東南海地震災害教訓の抽出・絵画化プロジェクト」(木村玲欧代表)による体験談の収集および絵画化		地域住民	『災害史に学ぶ-海溝型地震・津波編』2011
37	三河地震と深溝断層	地震	1945	1945年1月13日に三河湾で発生した直下型地震。東海地方を中心に被害をもたらし、2306人の死者を出した。M6.8の内陸直下型地震。20世紀に起きた日本の被害地震の中で6番目に多いもので、極めて大きな被害を出した。	地形	災害時	愛知県額田郡幸田町深溝	深溝(ふこうず)断層: 水田の中央を東西に走っている活断層が隆起した結果形成されたもの。最大落差は約1.5メートル。地表のズレを示した支柱で落差を可視化。	防災教育	2008	防災教育チャレンジプラン「土地の古老の三河地震被災体験談から学ぶ、地震・災害のしくみと防災のあり方」: 土地の歴史災害を掘り起こし、被災者体験談の取材と、これらを絵画として被災体験教材を作成した。家族や地域住民が集まる学芸会において防災劇を上演した。	名古屋大学災害対策室		『災害史に学ぶ-内陸直下型地震編』2016

番号	遺構・遺産名	災害	西暦	災害及び活動の特徴	媒体	設置年	場所	媒体の詳細	活用	活動期間	活用の方法	主体	主な対象	出典			
38	昭和南海地震津波と各地の聞き取り調査	地震津波	1946	昭和21年12月21日に紀伊半島を震源として発生。死者・行方不明者約1300人、高知県では地盤沈下と津波による被害をうけた。						防災教育	2005	ぼうさい甲子園「主体的に創り上げる地域の防災」：ハザードマップ作成のため、地域の区長、昭和南海地震を経験したお年寄りからの聞き取りをし、ハザードマップを作成し、同じ地域の小学生に紹介した。	愛媛県・愛南町立中浦中学校				
											防災教育	2010	防災教育チャレンジプラン「みなみ版防災動画教材制作プロジェクト」：昭和南海地震津波の体験者への聞き取りを、徳島文理大学・徳島大学と連携して動画を撮影し、体験談を取材し、DVD「語り継ぐ防災きずな」を作成した。	西の地防災きずな会（徳島県美波町由岐地区）			
												防災教育	2009年	防災教育チャレンジプラン「防災紙芝居」の制作と古文書による過去の地震の調査：昭和南海地震体験者への聞き取りなどから、防災紙芝居「じしんとマモルくん～ヤタガラスさんといっしょ～」を制作した。	和歌山県立新翔高等学校	保育園児・小学生	
												防災教育	2005	防災教育チャレンジプラン「兵庫県と高知県の高校生による防災ワークショップ&フィールドワーク」：全国で唯一「環境防災科」を設置する兵庫県立舞子高等学校の高校生を招聘し、将来の南海地震を経験するであろう高校生同士が「防災」について話し合うワークショップ、フィールドワークを実施し	高知県立高知東高等学校		
												防災教育	2005	ぼうさい甲子園「津波に負けない防災意識を」：2003年度に実施した昭和南海地震津波の聞き取り学習や災害図上訓練を実施し、防災マップの作成や避難訓練をおこなっ	高知県・高知市立浦戸小学校		
												防災教育	2008	ぼうさい甲子園「地元の特性を学び、地震に備える」：南海地震を体験した高齢者の話を聞くとともに、江戸時代から塩田の町として栄えた地域の歴史を学んだ。学校では避難所設営シミュレーション訓練を実施した。	愛媛県・新居浜市立多喜浜小学校		
39	カスリーン台風の被害と水防法の公布	台風	1947	中流部の利根川の堤防が決壊、氾濫流が埼玉、東京を襲った。	写真	1947	渋川市(旧敷島村)敷島氏役場(群馬県渋川市石原80)	『沼尾川流域災害記録』、『敷島村誌—昭和22年9月の大洪水』	防災	1949	水防に関する諸制度を一体化、水防法の公布		自治体	『災害史に学ぶ—風水害・火災編』2011			
					写真	1955	桐生市(桐生市市政新聞)	『桐生市水害写真史』									
					写真	1950	埼玉県立浦和図書館(さいたま市浦和区高砂3-1-22)	『昭和22年埼玉県水害史附録写真帳』									
					写真	1997	埼玉新聞社(さいたま市北区吉野町2-282-3)	『報道写真集カスリーン台風』	防災教育	2010	ぼうさい甲子園「防災訓練を通じて児童に災害への対応能力を」：カスリーン台風による大水害の教訓について講和を聞き、児童達は防災宿泊学習で避難所生活を疑似体	栃木県小山市立下生井小学校					
					建築		板倉町	「水塚」…邸内に2~3メートル程度の盛り土、その上に建物を設置し、食料・飲料水を									
					石碑	1948	「決壊口跡」カスリーン台風利根川決壊口跡									北原委員報告2015.10.15	
40	飯田大火とりんご並木	大火	1947	1947年4月20日に飯田市において大火発生。建物焼損面積は戦後最大。復興時に地元飯田東中学校の生徒達によるりんご並木の植樹。					防災教育	2012	2000年から紙芝居の作成を開始、2012年の防災教育チャレンジプランでは、地元中学生と協同して大火関係者からの聞き取りなどから紙芝居「飯田大火とりんご並木」を制作し、紙芝居DVDを作成している。	飯田市赤十字奉仕隊		<a href="http://www.bosai-study.net/2013houkoku/info.php?type=1&amp;no=4">http://www.bosai-study.net/2013houkoku/info.php?type=1&amp;no=4</a>			
41	福井地震で被災した酒伊ビル	地震火災	1948	M7.1。震源近くの集落の住家が全壊。都市直下の地震。福井県を中心に死者3769人、住家等の全壊36184棟の大きな	構造物	不明	福井県福井市中央1丁目7番1号	福井地震で被害をうけた酒伊ビルは、修復して現在中央三井信託銀行として残存					地域住民	『災害史に学ぶ—内陸直下型地震編』2017			
42	平和池	水害	1951	昭和26年7月の集中豪雨で決壊、75名の死者。	資料館(公民館)	2002	亀岡市内丸町45-3	亀岡市中央公民館では、水害体験を地域防災に役立てるため、水害資料をデータベース化、公民館内に水害資料閲覧室を設置したほか、避難拠点の公民館の改修整備、防災倉庫の新設、防災備品の配備を実施している。	防災	2002	平和池水害特別委員会		地域住民	<a href="http://shinocho.hetem.jp/shinocho/?page_id=1">藤町自治会URL: http://shinocho.hetem.jp/shinocho/?page_id=1</a>			
									イベント		防災講演、子供達の地域学習交流。		学齢児童				
43	伊勢湾台風の災害を語る会	台風	1959	1959年(昭和34年)9月26日に潮岬に上陸し、紀伊半島から東海地方を中心とし、ほぼ全国にわたって甚大な被害を及ぼした台風。伊勢湾沿岸の愛知県・三重県の被害が特に甚大であり、「伊勢湾台風」と呼ばれることと					イベント		長島町の地元の子供に伊勢湾台風体験者の説明会。	長良川河川工事事務所	地域住民	伊勢湾台風50年『あの日を忘れない～伊勢湾台風の災害を語る会～』を開催URL: <a href="http://www.water.go.jp/honsya/honsya/pamphlet/kouhoushi/2009/pdf/0909-07.pdf">http://www.water.go.jp/honsya/honsya/pamphlet/kouhoushi/2009/pdf/0909-07.pdf</a>			

番号	遺構・遺産名	災害	西暦	災害及び活動の特徴	媒体	設置年	場所	媒体の詳細	活用	活動期間	活用の方法	主体	主な対象	出典
44	狩野川台風の記憶をつなぐ会	台風	1958	1958年(昭和33年)9月27日に神奈川県に上陸し、伊豆半島と関東地方に大きな被害を与えた台風である。	資料館	1997	〒410-2204 静岡県伊豆の国市堀之上467-2	狩野川台風での状況を伝える写真や新聞、書籍などの印刷物や映像などを、狩野川資料館でビデオ上映、パネル展示等をしている。	記録収集		印刷物や映像の収集	沼津土木工事事務所長、沼津・三島市町首、市民団	有識者	沼津河川国道事務所 URL: <a href="http://www.cbr.mlit.go.jp/numazu/river/tsunaru/index.html">http://www.cbr.mlit.go.jp/numazu/river/tsunaru/index.html</a>
45	伊勢湾台風と災害対策基本法の整備	台風 水害	1959	東海地方を中心に中国・四国地方から北海道までの広い範囲で死者・行方不明者5098人の大災害。この災害を契機として『災害対策基本法』が制定。	写真	1999	木曾川下流河川事務所(三重県桑名市大字福島465)	伊勢湾台風により、泥の海と化した伊勢湾奥の低平地の状況を捉えている写真が『自然とひとのかかわり—伊勢湾台風から40年』に収められている。	防災		災害対策基本法の整備		自治体	『災害史に学ぶ—風水害・火災編』2011
					写真		中日新聞社	『伊勢湾台風の全容』には、寸断された半田市海岸堤防と打ち上げられた船舶の写真や、高潮氾濫の直撃を受け跡形もなく流失した半田市の住宅の写真が収められている。	防災	1991	名古屋市臨海部防災条例＝津波・高潮・出水による災害危険区域の指定、居住室を有する建築物、公共建築物の床の高さや構造に対する制限	自治体		
					写真	1959	NHK出版	『放送文化』—被災地の速報版には、災害広報活動の展開のため、被災地区の市民に対しNHKと共同で速報板を設置した様子がとらえられた写真が収められている。						
46	チリ地震津波と津波碑・防災教育	地震 津波	1960	北海道から沖縄までの日本太平洋沿岸、地震もないのに思いもよらぬ津波に襲われる。	石碑		東桜島小学校校庭(鹿児島市東桜島町17番地)	2基の記念碑、それぞれ『地震があれば津波の用心』『地震がなくとも津波は来る』と記載。	防災教育	2005	ぼうさい甲子園「チリ津波の教訓を今に生かす」:チリ地震津波で死者3名・全半壊137戸の被害を生じた喜屋武地区において、チリ津波経験者に聞き取り調査を実施した。	沖縄県名護市喜屋武小学校	地域住民	『災害史に学ぶ—海溝型地震・津波編』2011
					写真	1962	国立国会図書館蔵書(〒100-8924 東京都千代田区永田町 1-10-1)	『大船渡災害誌』には、岩手県大船渡市で撮影された、津波で流され家屋を破壊した漂流船の写真が載っている。						
47	『伊那谷三六災害』有線放送・記念誌、歌舞伎、記録文集等	豪雨 土石流	1961	昭和36年梅雨前線豪雨、通称「三六災害」は、昭和36年(1961年)6月24日から7月10日にかけての大雨による災害。特に長野県南部の伊那谷など天竜川流域に、氾濫や土砂災害による甚大な被害を与えた。					イベント		「三六災害50年シンポジウム」		地域住民	
									イベント		(演劇)「演劇的記録三六災害五十年」	地元演劇集団		
									教育		「三六災害から50年 土砂災害・水害に備え」	教材配布		
									イベント		(歌舞伎)「三六災害半世紀」	中尾座		
48	津波痕跡データベースシステム	地震	1498以降 複数	有史以来の歴史津波	データ ベース	2007	<a href="http://irides.tohoku.ac.jp/project/tsunami-db.html">津波痕跡データベース URL:http://irides.tohoku.ac.jp/project/tsunami-db.html</a>	原子力発電所等の安全性評価に活用するために津波専門家との協働で、東北大学および原子力安全基盤機構(現 原子力規制庁)が、津波の痕跡データをインターネット上で一般公開している。			東北大学災害科学国際研究所、原子力安全基盤機構	研究者、 企業企業		
49	宝永地震被害城郭データベース	地震 津波	1707	南海トラフのほぼ全域にわたりプレート間の断層破壊が発生したと推定され、記録に残る日本最大級の地震とされてきた。高知などでは液状化が発生。	データ ベース	2014	<a href="https://www.google.com/maps/d/viewer?mid=zY9K-Q7KwmlkgfMRElvzGM&amp;hl=en_US">https://www.google.com/maps/d/viewer?mid=zY9K-Q7KwmlkgfMRElvzGM&amp;hl=en_US</a>	「楽只堂年録」(宝永4年柳沢吉保の公用日記)の城郭被害に関する記述を抜き出し、該当する城郭の所在地をマップ化、マーカーをクリックすると地震に関する絵図・文書などが表示される。					北原委員報告 2015.10.15	
50	三重県地震碑・津波碑の集成『いのちの碑』	地震 津波	1496以降 複数	明応地震津波 宝永地震津波 安政南海津波	石碑・刊 行物	2015	三重県内	三重県内における地震碑、遺戒碑などの写真・所在地等のデータを収録している。				新田康二 (三重県南伊勢高等学校教諭)	教育関係者	
51	四国防災八十八話	地震 津波 水害	複数	有史以来の洪水・土砂災害・濁水・高潮・津波	データ ベース	2008	<a href="http://www.ccr.ehime-u.ac.jp/dmi/web88_0807/">四国防災八十八話URL: http://www.ccr.ehime-u.ac.jp/dmi/web88_0807/</a>	四国四県で発生した洪水・土砂災害などの歴史や伝承をまとめ公開している。				国土交通省 四国地方整備局、愛媛大学	地域住民・学 年齢 児童	
52	天竜川上流域災害教訓伝承手法検討会	水害	江戸時代 以降複数	江戸時代から明治・大正・昭和の天竜川災害					防災	2007	災害教訓伝承事例のとりまとめ、巨訓電抄ツール、伝承授業、伝承講座、散策	座長: 笹本正治信州大学教授を中心とする学識経験者・教育関係者(平成19~21年)	有識者	<a href="http://www.cbr.mlit.go.jp/tenryo/flood/densho/pdf/tebiki.pdf">天竜川上流域 災害教訓伝承手法 実践の手引きと事例 URL:http://www.cbr.mlit.go.jp/tenryo/flood/densho/pdf/tebiki.pdf</a>
53	津波デジタルライブラリ	津波	明治以来 複数	明治三陸地震津波、昭和三陸地震津波、昭和南海地震、昭和東南海地震	データ ベース	2003	<a href="http://tsunami-dl.jp/">津波デジタルライブラリ URL:http://tsunami-dl.jp/</a>	過去の津波に関しての論文・報告書・雑文・新聞記事をまとめ公開している。津波費の写真・所在情報も掲載。				津波デジタルライブラリ作成委員	研究者、 企業	
54	四国防災アーカイブス	地震 津波 水害	1896以降 複数	四国での災害	データ ベース		<a href="http://www.shikoku-saigai.com/">四国防災アーカイブスURL: http://www.shikoku-saigai.com/</a>	四国内の郷土史、写真集、論文等の収集し被害の様子を掲載している。				四国防災アーカイブズ事業検討委員会	地域住民	

番号	遺構・遺産名	災害	西暦	災害及び活動の特徴	媒体	設置年	場所	媒体の詳細	活用	活動期間	活用の方法	主体	主な対象	出典
55	水害情報発信—水害の記録と記憶—(滋賀県HP)	水害	1933以降複数	滋賀県内で発生した水害	データベース		水害情報発信サイト:URL http://www.pref.shiga.lg.jp/h/ryuiki/hanran/	滋賀県内の水害に関する「記録と記憶」の収集・整理				滋賀県	地域住民	水害情報発信—水害の記録と記憶—URL: http://www.pref.shiga.lg.jp/h/ryuiki/hanran/index.html
56	地すべり資料館	地すべり	奈良、鎌倉時代	昔、比丘の所にお経を書いてもらいに来ていた猿が、頭を土に埋めて死んでいた。『今昔物語集』より。	伝承 資料館	不明 1992	新潟県上越市 〒944-0125新潟県上越市板倉区猿供養寺402-1	奈良時代や鎌倉時代の伝承が残る”猿供”猿供養寺”の地名・伝承について映像などを展示						
57	雲仙普賢岳噴火	火山	1990-1995	1990-1995の内に3回の噴火があった。水蒸気爆発として始まり、噴火で大量の火山灰が山腹に体積した。火砕流が4.3km流下し、島原市北上木場町で死者・行方不明者43人、建物の消失約170棟という被害が出	施設 施設	2002 1999	旧大野木場小学校被災校舎(長崎県南島原市深江町戊3243) 旧大野木場小学校被災校舎(長崎県南島原市深江町戊3243)	雲仙岳災害記念館:災害の構成への伝承を目的とし、フィールドミュージアムの中核施設として建設。火山体験型ミュージアムや土石流の埋め立て地の展示。 旧大野木場小学校被災校舎:大野木場砂防みらい館:火砕流に被災した大野木場小学校や土石流に被災した家屋を公園として	防災教育	2012	防災教育チャレンジプラン「阿蘇五岳のふもと中松～火山との共生～」:阿蘇の自然について、小学生児童によるジオパーク国際ユネスコ会議で発表、水害避難訓練の実施、修学旅行における雲仙岳災害記念館の訪問、阿蘇の世界ジオパーク登録に向けての活動などを実施した。	南阿蘇村立中松小学校	小学校3～6年生	杉本委員報告 2015.11.17
58	名古屋大学減災連携研究センターの取り組み	地震津波		南海トラフ巨大地震等の危険が指摘される東海圏(愛知・静岡・岐阜・三重)の歴史災害情報の発信や防災意識の啓発活動	資料館	2014年	減災館	減災ギャラリーとライブラリーを設置、一般市民に開放し、最先端の減災研究や歴史災害についての常設展やパネルと紙芝居を作成した企画展を実施。また各地でキャラバン隊が展示会を開催。愛知県内の碑・史跡について位置情報や関係情報を集約・整理した個票を作成。	研究	2012～	中部「歴史地震」研究懇談会:歴史地震に興味ある全ての市民が参加を目指して活動。事務局を名古屋大学連携研究センターにおき、年2回の会合をもち、会員から研究成果を発表する。	名古屋大学	地域住民	福和委員報告 2015.10.15
					データベース	2014年	<a href="http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/">歴史地震記録に学ぶ防災・減災サイトURL:http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/</a>	「減災さんの歴史地震記録伝承WEBサイト」地域に残る地震の記録について、碑・史跡・資料・古文書・研究資料などの情報を掲載し、県民の防災意識向上を目指す。	研究		減災連携センター内の勉強会として、様々な分野の研究者20人弱で勉強会を実施。	減災館教員	研究者	
					ガイドマップ	2012～	<a href="http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/">歴史地震記録に学ぶ防災・減災サイトURL:http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/</a>	歴史地震記録に学ぶ防災・減災ガイドとして愛知県を6つのブロックにわけ、碑・史跡や被災を受けた記録のある場所をプロットし、周辺情報を記載したガイドを発行。キャラバン隊(災害伝承伝え隊)が派遣先で配	イベント	2012～	「新緑ピクニック」名古屋市内の地震関連の史跡についてピクニック形式での町歩きを実施。		地域住民	
					パンフレット	2013～	<a href="http://www.gensai.nagoya-a">歴史地震研究プロジェクト</a>	「見てみよう!歴史地震記録と句のあいち」愛知県内の地震にまつわる碑や史跡の紹介、史跡やイベント・名物を交えて紹介。						
					パンフレット	2015～	<a href="http://www.gensai.nagoya-a">歴史地震研究プロジェクト</a>	「歴史地震探索まちあるきガイド」指定地域内の地震に関する碑や史跡をめぐるルートを紹介。						

災害時期から対象外

59	区民参加型「命を守る」防災ワークショップ	水害	1974	1974年七夕豪雨					防災		「命を守る」防災ワークショップ、まち歩きによる危険箇所のチェック、ハザードマップの作成	常葉大学社会貢献ボランティアセンター	地域住民、大学生	常葉大学URL: <a href="http://www.tokoha-u.ac.jp/news/150520-2/index.html">http://www.tokoha-u.ac.jp/news/150520-2/index.html</a>
60	長崎豪雨災害	水害	1982	激しい雷を伴う梅雨末期の典型的な集中豪雨であり、短期間の降雨の強さでは近年の豪雨災害で最も被害の大きかった諫早豪雨をしのぎ、日本の観測史上最大級。	写真 石碑		長崎県浜町思案橋そば	長崎の写真映像プロダクション 「長崎大水害記念塔」には、長崎市の繁華街・浜町の冠水水位を記されている。また、豪雨災害を踏まえた都市づくりのあり方が地域代償(自治体、商工団体、議員等)も参加した「長崎防災都市構想策定委員会」において評議された。	復興		「長崎防災都市構想策定委員会」により、水害で破壊された重要文化財・眼鏡橋の横にバイパス水路を設置のほか、緊急治水ダム事業、安全な斜面の形成、道路網・交通網整備、自主防災組織の育成など総合的な防災体制の整備		自治体	『災害史に学ぶ—風水害・火災編』2011
61	酒田の大火と地域復興	火災	1976	1976年(昭和51年)10月29日17時40分頃、酒田市中町2丁目にあった映画館「グリーンハウス」のボイラー室から出火。すぐに観客20名は避難したが当日の酒田市は風が強く、またく間に隣接していた木造ビルや木造家屋に燃え広がった焼損棟数1774戸。被害総額405億円。	写真	災害直後	酒田市	酒田の大火の航空写真や消防直後に撮影された写真。酒田市提供。	復興		延焼を拡大する要因のアーケードをとりやめ、セットバック方式による町作り		自治体・地域住民	『災害史に学ぶ—風水害・火災編』2011